



年間第 5 主日 (マルコ 1:29-39)

イエスは人々を神に従う人に変える

年間第 5 主日 B 年の朗読は先週の朗読の続きで内容もつながっています。先週は汚れた霊に取りつかれた人をイエスがいやす場面が選ばれていました。今週も必要に応じてシモンのしゅうとめの熱を取り除き、悪霊を追い出し、宣教しています。これらを一言で言い表すことができれば、先週の朗読と今週の朗読のつながりを説明できると思います。

田平町地区対抗駅伝、五島市福江での司祭団マラソン、どちらもいい仕事をしました。駅伝はタイムこそ物足りないですが、雨にもかかわらず教会の前をあれだけ人が埋めたのはわたしのおかげだと思います。応援してくれた皆さん、小手田地区の皆さん、ありがとうございました。

司祭団マラソンは、結果的に目的を達成して帰りました。10 キロを 1 時間切るタイムで走り、前を走る何人かを追い抜き、胸に貼り付けた献堂百周年の宣伝もちゃっかり果たしてきました。ただこれらは結果的にということにして、いろいろとんでもないことをやってきました。

30 日 (火) 司祭団マラソンに向かうため、長崎の大波止から 7 時 40 分の高速船を予約していました。宿泊させてもらった大司教館から大波止は少し離れています。たとえば言うと、田平教会の司祭館から平戸港くらいの距離です。7 時 40 分きっかりに船が出向するのですが、この日わたしは寝坊して、7 時 20 分に大司教館で目が覚めました。

慌ててマラソンの格好だけを整え、他は置いたまま飛び出し、浦上教会下でタクシーを呼び止め、大波止に向かいました。平戸港に行くくらいの距離です。切符は後輩の尾高神父さまに建て替えて買ってもらい、到着した時は 7 時 35 分。恥ずかしい思いをしながら船に乗り込みました。

それでも何とかスタート地点に立ち、半分位走ったところでエンジンがかかり、前の人を追い抜きにかかります。最大の難所の上り坂で歩いている後輩も追い抜きましたし、最後はゴールの福江教会手前で、田平教会がゴールなら、生向 (いけむこ) 公民館くらいの距離で手足の長い蟹股の後輩司祭を抜き去り、25 人中 11 位でゴールしました。

教会献堂百周年の宣伝もしっかり果たしてきました。沿道のじいさんばあさんたちが「胸の張り紙は何て書いとっとやろか～」と言うので、「読みづらいのだな」と思い、必要に応じてじいさんばあさんの前を「欽ちゃん走り」して読みやすいように走りました。宣伝もばっちりです。

前にも言いましたが、わたしが走るのは好きだからではありません。賑わせのためです。教会に目を向けてもらいたい、教会と地域をつながたい。そういう思いです。実は今週の福音朗読にも、イエスの心にある一つの思いが込められていると思います。それは「神の国を告げ知らせる」ということです。

先週の福音朗読でわたしたちは、汚れた霊に取りつかれた人がいやされ、神に背を向ける人から神に従う人にならなくなっていく様子を見ました。今週の朗読の始め、シモンのしゅうとめが熱を出していたのがいやされ

ると彼女は一同をもてなしています。それはイエスに従う女性たちがおこなっていたすぐれたわざでした。

ルカ福音書に「ヘロデの家令クザの妻ヨハナ、それにスサンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒であった。彼女たちは、自分の持ち物を出し合って、一行に奉仕していた」（ルカ 8・3）とあります。シモンのしゅうとめも、イエスに従う女性の姿を示していたわけです。

このシモンのしゅうとめの態度が、今週の朗読全体を生き生きとさせています。あとに続く悪霊に取りつかれた人は悪霊を追い出され、本来の神に従う生き方に戻してもらいました。けれどもイエスは奇跡をおこなうことに縛られてはいませんでした。

「近くのほかの町や村へ行こう。そこでも、わたしは宣教する。そのためにわたしは出て来たのである。」（マルコ 1・38）「神の国を告げ知らせる」これがイエスの最優先の使命だったのです。ある時は言葉で、ある時はわざで神の国を告げ知らせ、人々を神に従う人に創りかえていったのです。

わたしが参加した駅伝大会でもマラソン大会でも、ひょっとしたら多く人は「また何か変なことをしている」と思ったかもしれません。どう思われようとわたしは構いません。そこに田平教会のことを知らせることのできる人がいるなら知らせる。それだけのことです。

イエスが人々に示した先週と今週の結び目は、「神の国を告げ知らせる」ということでした。わたしたちも自分の活動の範囲内で「神の国を告げ知らせる」必要があります。イエスは病の人、悪霊に苦しめられている人を全員いやしたわけではありませんでした。町々を巡って示されたのは、イエスによって変えられた人が、後を引き継ぐことができるように、道を開いてくださったのです。

イエスに声をかけられて従った 12 人の弟子、言葉や奇跡で神に従う人に変えてもらった人々、ほかにもそれらを目撃した人たちが、時代を超え、場所を越えて「神の国を告げ知らせる」、つまり人々を神に従う人に変えていくことを期待しているのです。

今朝あなたは、起きた時に顔を洗ったでしょうか。それだけでは父母に倣う人、兄弟姉妹に倣う人にすぎません。では今日一日を祈りで始めたでしょうか。その時あなたは、神に従う人、神の望みに耳を傾ける人に変えられたのです。教えるのは小さなことで構いません。食前の祈りを唱えて食事を始める。これ一つ教えるだけでも、あなたは自分の子や孫を、神に従う人に変えているのです。「神の国を告げ知らせる」とは、こうした小さなことの積み重ねなのです。

あと 3 カ月もすれば田平教会の献堂百周年ですが、告げ知らせるためにどうか一役買ってください。友達との会話に一言付け加えてください。「わたしたちはこの教会に百年結ばれて、今日を迎えています。」「神の国を告げ知らせる」これは遠い場所での話ではなく、身近な場所で起こるものなのです。